

Ⅲ 中学部

「何をどのように学び、何ができるようになるかを明確にした指導計画の作成と授業改善」

1 研究の趣旨

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（以下、学習指導要領と書く）第1章第3節3（3）（オ）には、「各教科、道徳科、外国語活動及び自立活動の一部又は全部を合わせて指導を行う場合、各教科、道徳科、外国語活動、特別活動及び自立活動に示す内容を基に、児童又は生徒の知的障害の状態や経験等に応じて、具体的に指導内容を設定するものとする。」とあり、その解説として「各教科、道徳科、外国語活動及び自立活動の一部又は全部を合わせて指導を行う場合は、複数の教科の目標や内容を組み合わせて、学習活動を展開するものだから、指導計画には、関連する教科とその内容を明らかにしなければならない。」とある。また、第1章第4節には、「第2節の3の（1）から（3）までに示すことが偏りなく実現されるよう、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童又は生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと」とある。

以上の学習指導要領に書かれていることを受けて、本研究では、「何をどのように学び、何ができるようになるかを明確にした指導計画を作成し、授業改善を図ること」と「単元指導計画の作成を通して、学習指導要領の内容を理解すること」を目標に掲げ、生活単元学習の単元指導計画の作成と授業改善を行った。具体的には、関連する教科とその内容（知識及び技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力の三つの柱を含め）を明らかにすることと「主体的な学び」、「対話的な学び」「深い学び」の視点を入れた指導内容と学習評価を充実させることを目指した。

2 研究計画

時 期	研究形態	内 容
令和2年度4月	中学部研修係	・単元指導計画の様式・記入例の作成
5月～	中学部全職員	・担当する単元指導計画の作成
5月～1月	学校課題研究日 （6回）	・Plan・・・担当者が作成した単元指導計画をグループで検討 ・Do・・・単元指導計画を基に授業を実施 ・Check－Action・・・グループで単元の反省。単元指導計画の改善。 次回に生かす。
2月		・中間報告会
令和3年度4月	中学部研修係	・「主体的な学び」、「対話的な学び」「深い学び」の視点を入れた指導内容の記入例の作成 ・振り返りシートの作成（3学年）
5月～	中学部各学年	・Plan・・・昨年度の担当者が作成した単元指導計画を現担当者が検討 ・Do・・・単元指導計画を基に授業を実施 ・Check－Action・・・各学年で単元の反省。単元指導計画の改善。 次回に生かす。
10月	中学部各学年	・授業実践・反省会

1 2 月	担当者	・研究のまとめ
-------	-----	---------

3 実践

(1) 令和2年度

① Plan

学習指導要領第1章第3節の「指導計画の作成に当たっての配慮事項」には、「各教科等の各学年、各段階、各分野又は各言語の指導内容については～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して資質・能力を育む効果的な指導ができるようにすること」、「各教科等及び各学年相互間の関連を図り、系統的、発展的な指導ができるようにすること」とあることから、検討会では、学年を超えたグループ編成により、次のような手順で系統性や段階を検討した。

ア 目標、学習内容が系統的であるか。

イ 関連する教科が系統的、段階的であるか。

- ・可能な範囲で段階的な内容になっているかを比較する。例えば、学年が上がるに従って1段階から2段階に移行しているか、思考力・判断力・表現力が上がっているかなど。(表1)

(表1)「社会」に注目した場合

学年	単元名	関連する教科		
		知・技	思・判・表	学びに向かう力
1	中学生の生活	(国語) 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。 (社会) 自分の意見を述べたり相手の意見を聞いたりすること。 (数学) 時刻や時間に関わる数学的を通して、日常生活に必要な知識及び技術を身に付けること。 《生活》身の回りの春を感じる場所を選ぶこと。	(国語) 相手の話に関心を持ち、分かったことや感じたことを伝え合い、考えをもつこと。 (数学) 身の回りの事象を、データの情報に着目して捉え、簡潔に表現したり、考察をする力を養う。	(国語) 自分の意見を言葉や身振り・手振りで伝えること。 「理科」に関しては、学習の積み重ねが薄いため、中学部1段階が難しい場合には、「生活」の3段階から選んでもよいこととした。
2	新しい学年	(国語) 文字の形に注意して丁寧に書いたり、発音や声の大きさに気を付けて発表したりすること。 (社会) 自分の意見を述べたり相手の意見を聞いたりすること。 ・学級でのきまりを知り、それを守る大切さが分かること。	(国語) 教師や友達との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつこと。 (社会) 集団生活の中で何が必要かに気づき、自分の役割を考え、表現すること。	(国語) 自分の意見を言葉や身振り・手振りで積極的に伝えること。

		(理科) 建物によってできる日陰や物によってできる影の位置、太陽と日陰や影の位置について知ること。		
3	新しい学年	(国語) 文字の形に注意して丁寧に書いたり、発音や声の大きさに気を付けて発表したりすること。 (社会) 意見を述べ合い、助け合い、協力しながら生活する必要性を理解すること。 (数学) 気温を簡単な表やグラフに表し、気温の高低を読み取ること。 (理科) 地面が太陽によって暖められることを理解するとともに、観察に必要な計器を適切に扱い、結果を正しく記録することができるようにすること。	(国語) 教師と友達との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつこと。 (社会) 周囲の状況を判断し、集団生活の中での自分の役割と責任について考え、表現すること。	(国語) 自分の思いや考えを積極的に伝えること。

② Do

検討した単元指導計画を基に、各学年、学級で授業を実施した。授業実施に当たり、次の三つの共通理解事項を決めた。

ア ホワイトボードには、単元名、本時のめあて、学習の流れ（やること）を書く。

- ・「めあて」を書くことで、生徒は「何を学ぶのか」が分かる。また、「学習の流れ」を書くことで、生徒は「どのように学ぶのか」が分かる。

イ 授業の終わりには「めあて」に対する振り返りを丁寧にを行う。

- ・振り返りの時間は、「子どものよいところを認めたり、褒めたり、励ましたりする」「子どもたちが自己評価、他者評価をする」(※1) 最適な場面である。丁寧な振り返りにより、生徒は「何ができるようになったのか」が分かる。従って、集団としての評価ではなく個に応じた評価を行うことが大切である。個に応じた評価は、学級程度の小集団であれば時間的に可能であるが、学習集団が学部または学年全体という生徒数が多い場合は、限られた時間に全員を評価することは難しい。そのため、主指導者が全体的な評価をしている間に、副指導者が個別にフォローするなどの振り返りの仕方に工夫する必要がある。

ウ 集中して学習できる環境を整える。

- ・ホワイトボード周辺に掲示物を貼ったり物を置いたりすると、それらが気になり、学習への集中の妨げになることから、「掲示物は背面や側面に貼ること」、「ホワイトボード周辺の掲示物は取り外しができるようにすること」とした。

③ Check－Action

本校学習指導部から出された「評価の観点」に従って授業を評価し、単元指導計画の改善を行った。

(2) 令和3年度

① Plan

令和2年度に作成した単元指導計画をより充実させるための改善を行った。改善事項は次の三つである。

ア 単元目標に該当する学習活動が入っているかを確認する。

イ 関連する教科に該当する学習活動が入っているかを確認する。

ウ 「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえて「指導上の留意点」を記入する。

始めに、担当者が上記の3点を念頭に昨年度の単元指導計画を訂正し、次に担当者が訂正した単元指導計画を同学年の教員全員でチェックした。

② Do

各学年で授業を行った。学校課題研究とは全員で取り組むべきものであるから、全員が何らかの役割をもって実践した。授業の際は、昨年度決めた「三つの共通理解事項」を徹底した。

ア ホワイトボードには、単元名、本時のめあて、学習の流れ（やること）を書く。

イ 授業の終わりには「めあて」に対する振り返りを丁寧に行う。

ウ 集中して学習できる環境を整える。

③ Check-Action

該当単元が終了後に同学年の教員全員で振り返り（評価・改善点）を行う。

④ 各学年の単元指導計画

※単元指導計画内の表記について

主・・・主体的な学び①興味・関心を生かした動機付け②見通しをもたせる工夫③学びを振り返る場面設定④生活に結びついた具体的な活動

対・・・対話的な学び①思いを受け止める関わり②生徒同士や教師との対話を通して、考えを深める活動

深・・・深い学び①思考・判断・表現を深める教材の工夫②考えを深める問い③学びを活用する場面の設定④教科で学んだことを社会生活で生かせる学習活動

1 学年

単元指導計画（生活単元学習・中学部）

番号	5	実施月	6	時 数	7 時間
単元名	校外学習に行こう	学部学年	中学部 1 年	担当者	小林
単元目標	1 公共施設の利用の仕方やマナーを理解することができる。 2 見学をとおして、消防署の仕事や役割を知ることができる。				
具 体 的 目 標	A	1 公共施設の利用の仕方やマナーを理解し、自分で考えながら行動することができる。 2 見学をとおして、消防署の仕事や役割を知ることができる。			
	B	1 約束を守って、落ち着いて公共施設を利用することができる。 2 見学をとおして、消防署の仕事を知ることができる。			
関 連 す る 教 科	国語	・文字の形に注意して丁寧に書いたり、発音や声の大きさに気を付けて発表したりすること。 （知・技）			

		・自分の意見を述べたり相手の意見を聞いたりすること。（思・判・表）		
	社会	・身近な公共施設や公共物の役割が分かること。（知・技） ・社会生活のきまり、公共施設の役割などについて関心を持ち、生活に生かそうとすること。（学び）		
	数学	・しおりを見て、日程や時間が分かること。（知・技）		
	職・家	・仕事の内容や仕事に対する心構えなどを見聞きするなどして働くことについて興味をもつこと。（知・技） ・将来の職業生活に向けて、課題に気付くこと。（思・判・表） ・将来の職業生活の実現に向けて生活を工夫しようとする事。（学び）		
関連する道徳項目		遵法精神、公德心		
学習内容(時間)		指導上の留意点		準備物等
題材名:校外学習について(導入)		めあて	いつ、どこへ行くのか、何をするのかを知る。	PC
①日時、日程、見学場所について		・日程や活動内容が理解しやすいよう視覚的な教材を用意し、日程の確認をする。(主②) ・しおりで日程や目標の確認をする。 ・見学のマナーについて事前に話をしておく。		しおり
(1時間)				
題材名:しおりの作成		めあて	・文字の大きさを考えて、丁寧に書く。 ・自分で考えたり選んだりする。	しおり
①日程表の記入		・生徒の実態に応じてしおりの書式を変え、取り組みやすくする。 ・完成したしおりを見ながら、活動の見通しをもたせる。 ・メニューにはいくつかの選択肢を設け、生徒が自分で選べるようにする。(主①)		
②約束の確認				
③昼食のメニュー決め				
(2時間)				
題材名:様々な職業について		めあて	・将来の仕事について考える。 ・そのために必要な力について考える。	PC
①自分の将来について考える		・例をあげ、社会にはたくさんの仕事があることや自分の得意なことを考えることで働くことに対する意欲や意識を高める。(主①) ・学校生活において学習していることが職業生活にどのように結びついていくか具体的に示す。(深③)		
(1時間)				
題材名:消防署について		めあて	・消防署の役割を知る。 ・見学したい所や質問したいことを考える。	PC
①消防署について		・消防署の仕事についての事前学習をして、見学したい所や質問したいことを考えることができるようにする。		
(1時間)				
題材名:事後学習		めあて	・見学や体験したこと、分かったことなどを振り返る。	PC、色画用紙、マジックペン、のり、両面テープ
①写真を見る、約束の振り返り		・写真や動画を用いて思い出しやすくし、見学や体験、質問したことをまとめることで振り返り、理解を促す。(対②)		
②礼状作成		・生徒の実態に応じた書式に配慮し、礼状(コメント)が書けるようにする。		
(1時間)				
振り返り（各題材5分）		・「めあて」に対する振り返りを毎時間行う。		

<授業の評価・改善点>

- ・コロナウィルス感染症対策により活動内容が縮小されたため、今回は個人目標ではなく、全体の約束を三つにまとめて振り返りやすいようにした。
- ・持ち帰り用昼食については、メニューからあらかじめ種類を絞ることで、生徒が自分で選んで決めることができた。
- ・働くことに対して関心をもつ機会となるよう、様々な職業をイラストで紹介した。将来の自分たちの働く姿をイメージし、やってみたい仕事を考えたり選択したりした。その仕事ができるようになるために今頑張ること（日常の目標）を考え、日々の生活につなげることができた。
- ・消防署の仕事内容や役割を動画で見た後、個々に質問を考えた。質問内容は事前に消防署へ伝え、見学中に説明してもらえたことは有効的な学習であった。
- ・事後学習では、消防署への質問の答えを振り返りシートにまとめることにより生徒たちの記憶に残り、礼状作成にも役立てることができた。
- ・那須烏山地域の災害や救助方法について細かく知ることができ、総合的な学習の時間につながる内容になった。

2 学年

単元指導計画（生活単元学習・中学部）

番号	10	実施月	6・7月	時数	5時間
単元名	職場見学	学部学年	中学部2年	担当者	荒井
単元目標	1 職場見学を通して、働くことの意義を知ったり、考えたりすることができる。 2 働くことに関心をもち、将来の自分について職業や夢を考えることができる。				
具体的目標	A	1 職場見学を通して、働くときに必要な資質や態度を考えることができる。 2 事業所の仕事を知り、自分の将来の職業の選択肢を増やすことができる。			
	B	1 事業所の様子を知ることで、いろいろな仕事があることが分かる。 2 働く人の話や様子を見聞きすることで、将来やりたいことを見付けることができる。			
関連する教科	国語	・普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を遣うこと。（知・技） ・見聞きしたことや経験したことの中から、伝えたい事柄を選び、書く内容を大まかにまとめること。（思・判・表）			
	社会	・自分の意見を述べたり相手の意見を聞いたりするなど、集団生活の中での役割を果たすための知識や技能を身に付けること。（知・技） ・集団生活の何が必要かに気付き、自分の役割を考え表現すること。（思・判・表）			
	職・家	・職業生活に必要な知識や技能について知ること。（知・技） ・職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について気付くこと。（思・判・表）			
関連する道徳項目		勤労 社会参画、公共の精神			
学習内容(時間)		指導上の留意点			準備物等
題材名：職場見学(導入) ①日時、日程、見学場所について		めあて	・いつ、どこへ行くのか、何をするのかを知る。 ・しおりに必要な事項を記入する。		PC しおり

②しおりの記入 (1時間)	・パワーポイント資料等、日程や活動内容が理解しやすいよう視覚的な教材を用意し、日程の確認をすることで活動に見通しをもてるようにする。(主②) ・見学時の約束事については、見学先の利用者の立場から考えるよう促し、他者の理解へと結び付けられるよう配慮する。(対①) ・しおりは、記入タイプ、選択肢付きタイプなど実態に応じて準備し、取り組みやすいようにする。		筆記用具
題材名：働くことについて ①働くことの意義について ③職場見学の約束の確認 (1時間)	めあて	・働くときに必要なことを知る。 ・将来の自分を考えて、それを文字や絵で書いたりイラストの中から選んだりする。	PC ワークシート 筆記用具
		・生徒の実態に応じてワークシートの書式を変え、取り組みやすくする。 ・完成したしおりを見ながら、活動の見通しをもてるようにする。(主②) ・働くことの意義や事業所の説明を聞いて、見学先で質問があるかどうか、考える時間を設定する。(主①)	
題材名：振り返り ①写真を見る ②目標・きまりの反省 (1時間)	めあて	・事業所での様子を思い出す。 ・目標をきちんと達成できたかどうか自分で考える。	PC ワークシート 筆記用具
		・写真を用意し、見学や質問の内容を具体的に思い出せるようにする。(主①) ・学校生活において学習していることが職業生活にどのように結びついていくか具体的に示す。(深③)。 ・どんなことができれば「目標達成」となるかを具体的に説明する。	
題材名：礼状作成 ① 礼状の作成 (1時間)	めあて	・感謝の気持ちを伝える。 ・丁寧な文字、言葉で気持ちを書き表す。	礼状用紙 メモ
		・伝えたいことを書き出し、その中から一番伝えたい事を選ぶようにする。(主③) ・実態に応じて升目や補助線の入った用紙を選択できるようにする。	筆記用具 のり 画用紙
題材名：事後学習 ①自分の将来について (1時間)	めあて	・自分の将来について考えることができる。	PC ワークシート
		・見学してきた作業や教師とのやりとりを確認し、自分の希望に近いことを考えることができるようにする。(対①) ・自分の希望を考えることが難しい実態の生徒には、見学先の作業を選択肢として提示し、関心のあるものを意思表示できるようにする。(主①)	

<授業の評価・改善点>

- ・パワーポイント資料では、過去の記録写真を使用したことで、見学先でどのように活動するかが具体的に説明することができた。また、仕事をしている人の周りで、どのように見学させてもらうかを教師とのやりとりから生徒自身が考えることができた。
- ・顔見知りの先輩が仕事をしている様子を見て、自分の将来をより具体的に考える機会となった。見学先として福祉作業施設は適切であった。
- ・教師が「将来の自分」を考えるという目的を共通認識していたことで、事前学習、見学、事後学習を進める中で、会話の中でそれぞれの生徒の考えを把握し、学校生活をどのように過ごすかを具体的に

指導することができた。

- ・事後学習で見学先の作業内容の振り返りをした際には、事業所の作業内容の中から将来の自分の仕事を選ぶ生徒がほとんどであったが、他の職業を希望する生徒がいた。その発言を受けて希望を変える生徒もいて、生徒同士のやりとりの中で思考を深める機会となった。
- ・校外宿泊学習の後で時間が取りにくく、他教科と入れ替えて時間を確保した。実施時期の検討が必要である。

3 学年

単元指導計画（生活単元学習・中学部）

番号		16	実施月	9月	時 数	3時間
単元名		2学期の生活	学部学年	中学部3年	担当者	田上
単元目標		1 友達と協力して活動することができる。 2 掲示物の作成や目標決めを通して、2学期の生活について知ることができる。				
具 体 的 目 標	A	1 自分の意見を述べたり、友達の意見を受け入れたりしながら、友達と一緒に活動することができる。 2 2学期の行事予定表を作成したり、個人目標を立てたりして、2学期の生活について知ることができる。				
	B	1 教師の促しに応じて意思を伝えたり、友達の話を静かに聞いたりしながら、活動することができる。 2 教師と一緒に行事予定表を作成したり、個人目標を立てたりして、2学期の生活を大まかに知ることができる。				
関 連 す る 教 科		国語	・文字の形に注意して丁寧に書いたり、発音や声の大きさに気を付けて発表したりすること。（知・技） ・教師や友達との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつこと。（思・判・表） ・自分の思いや考えを積極的に伝えること。（学び）			
		社会	・自分の意見を述べたり相手の意見を聞いたりすること。（知・技） ・学級での新しい役割を知り、その責任を果たす大切さを理解すること。（思・判・表）			
関連する道徳項目		希望と勇気、克己と強い意志				
学習内容(時間)			指導上の留意点			準備物等
題材名:役割分担 ①学級の係、清掃分担決め (1時間)			めあて	・自分がやりたい係、清掃分担を先生や友達に伝える。 ・友達と話し合いながら決める。		PC タブレット プロフィール表 メモ帳 筆記用具
			・どんな係、場所、内容があるのかを視覚的に分かりやすく提示する。（主②） ・司会役と記録役を選び、生徒間で話し合う場を設ける。（対②） ・タブレットに司会の進め方と係分担表を入れておき、タブレットを活用しながら進行や記録ができるようにする。（対②） ・生徒たちだけで話し合いができるよう見守るが、司会の問いかけを理解することが難しい生徒には個別に対応する。			
題材名:目標立て ①個人目標決め			めあて	・自分の目標は自分で考える。 ・大きな声でゆっくりはっきりと発表する。		PC タブレット

②発表 (1時間)	・目標は、個別の指導計画の短期目標につながる目標とする。 ・個人目標カードの作成の際は、生徒の実態に応じた書き方に配慮する。(文字のなぞり、文の長さ、平仮名、片仮名、漢字の使用など) ・1学期の目標カードを見て、達成した目標であれば新しい目標を立て、達成が不十分だった目標であれば同じ目標にするよう伝える。同じ目標にする場合は、どうすれば達成することができるのかを考える時間を設け、必要に応じて言葉かけの支援をする。 ・発表の際は、国語で学習したことを思い出し、相手に分かるように順序立てて話したり、発音、速さ、声の大きさに気を付けて話したりできるように、範を示したり支援カードを用意したりする。(深③)	目標カード 筆記用具 支援カード メモ帳
題材名:2学期の行事予定表作り ①書く ②掲示する (1時間)	めあて ・丁寧に書いて掲示する。 ・生徒の実態に応じた作業を分担したり、教材を用意したりする。 ・掲示したときの見やすい文字の大きさ、模造紙やマジックペンの色などを考えるよう促す。 ・見やすい場所を全員で相談しながら掲示する。	タブレット 模造紙 色画用紙 マジックペン のり はさみ 両面テープ
振り返り (各題材10分)	・「めあて」に対する振り返りを毎時間丁寧にを行う。主③ ・生徒が自己評価シートに評価を入力した後、教師が自己評価に対して、良かったこと、頑張ったことを具体的に称賛する。 ・一人で自己評価を行うことが難しい生徒には、教師が評価項目を読み上げながら一緒に評価をする。	タブレット(自己評価シート)表2

(表2) 自己評価シート

ふりかえろう(2学期の生活)			名前
9/3	1	やりたいかかりをともだちにしらせることができた。	・タブレット端末に自己評価シートを添付。個人のシートがある。 ・評価項目は、単元目標や関連する教科の目標、めあてに合ったもの。 ・評価の欄はドロップダウンリストで生徒が◎○△を選択できるようにした。
	2	クラスではなしあえた。	
9/3	3	もくひょうはじぶんでかんがえた。	
	4	もくひょうをいねいにかけた。	
	5	ゆっくりはっきりとはっぴょうできた。	
9/9	6	ていねいなよみやすいじでかけた。	
	7	カードをきめられたところにはれた。	
	8	みんなでそうだんしてはれた。	

<授業の評価・改善点>

- ・単元目標、関連する教科の目標、各時間のめあては適切だった。
- ・「指導上の留意点」に「主体的・対話的で深い学び」の視点を明記することにより、意識して指導を行うことができた。

- ・「2学期の行事予定表作り」は1時間しか取っていないが、活動内容から2時間取ったほうが適當。
- ・グループで話し合う経験を積ませたいと考え、本単元では司会の進め方や記録の取り方をタブレット端末で提示した。
- ・振り返りはタブレット端末を使用して自己評価シートを入力する工夫をした。評価項目が単元目標、関連する教科の目標、各時間のめあてと一致しており、自己評価したものは保存しているため、個別の指導計画の目標立てや評価に役立つ。
- ・振り返りシートの項目は、簡単すぎず難しすぎない項目で、自己評価しながら達成感を味わえた。
- ・振り返りの時間を考えると振り返りシートの項目は1時間につき3項目以内が適當。
- ・振り返りシートは、一人で入力することが難しい生徒には教師と一緒に評価した。一緒に評価することで、どこができてどこが課題なのかが分かり、次の指導につなげられると思った。
- ・タブレット端末を使用する機会が増えたことで、タブレット端末の出し入れ、立ち上げ、パスワードの入力などが生徒だけでできるようになり、技術面の成長が見られた。

4 成果と課題

本研究では、単元指導計画の目標、関連する教科の系統性や段階、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた「指導上の留意点」などについて検討し、それらを意識して授業を実施した。その結果、「何をどのように学び、何ができるようになるかを明確にした指導計画を作成し、授業改善を図ること」という一つ目の目標を達成することができた。また、単元指導計画の作成や検討会の際には、教員一人一人が学習指導要領や学習指導要領解説を頻繁に使用し、「単元指導計画の作成を通して、学習指導要領の内容を理解すること」という二つ目の目標も達成することができた。

以上の成果があった一方で、「めあて」（一時間の授業のねらい）の示し方の工夫と評価の仕方についての共通理解を図ることができなかった点が課題として挙げられる。栃木県教育委員会の指導資料には「一時間の授業（学習のまとめりごと）のねらいを、発達段階に応じて分かりやすい言葉で板書するなどして子どもたちにはっきりと示しましょう。ねらいについては、できるだけ具体的に、子どもたちが『何が』『どのように』『どれくらい』できればよいのかが分かるような示し方を工夫しましょう。」「ねらいが実現されたかどうか適切に評価し、それが次の授業改善に生かされる必要があります。」とある。今後は、「めあて」の示し方の工夫と「めあて」に準拠した評価の仕方について中学部教員全員で検討し、さらなる「分かる授業」の実現を目指していきたい。

引用資料

※1 教職員用リーフレット あなたは、学業指導を知っていますか！

平成21年1月 栃木県教育委員会

※2 指導資料・とちぎの子どもたちの学力向上のために 「学校力」・「教師力」を高めよう

平成19年2月 栃木県教育委員会

参考文献・資料

- ・特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 平成29年4月 告示
- ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）平成30年3月
- ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）平成30年3月
- ・教職員用リーフレット 栃木の子どもをグングン伸ばす 家庭学習のすすめ―「自ら学び、考える」子どもを育てるために― 栃木県教育委員会